

優秀賞 [高校生の部]

子どもたちが世の中への興味、関心を持てるように、子ども向け週刊誌を発行するという筆者の意欲が、審査委員の応援したい気持ち呼びました。

NPI学生小説コンテスト2012
自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会
私たちがすべきこと、できること、
やりたいこと
入賞作品

日本から
未来を
提案しよう



今どきの子供が未来を創る

——興味が繋ぐバトン

頌栄女子学院高等学校 2年

舂田 桃香 ますだ ももか

「今どきの若い子たちは」という言葉を年配の方が口にしてのをよく耳にする。しかしこれは、今若者たちに向けて言っている方々自身も言われてきた言葉に違いない。なんと平安時代から言われてきた言葉だからだ。あの有名な枕草子で清少納言は、『何事を言ひても、「その事させんとす」「言はんとす」「何とせんとす」と言ふ「と」文字を失ひて、ただ「言はむざる」「里へ出でんずる」など言へば、やがていとわろし』とその時代の人々の言葉の乱れを嘆いているが、きっと清少納言自身も文学以外では言われたことのある言葉であろう。

ではいつの時代が正しかったのかと言えば、

正しい時代など定義できない。だが、遠い昔からずっと変わらず伝わり、自然と日本人に染みついている文化と教訓は正しいと言えるのではないだろうか。「今どきの若い子たちは」と言っている人が現代にもいるということは、きちんと時代が移り変わっている証拠ではないかと考える。平安時代を生きた人々が私たちの生きる現代社会の抱える問題を予想できなかったように、次世代の子供たちが生きていく世の中では、私たちが予想もできない新しい問題がたくさん発生するであろう。未知の世界に進むことは怖く、心配なことである。しかし歴史がどんどん積み重なり、その中で生まれる教訓によって私たちの生活は成

今どきの子供が未来を創る

——興味繋ぐバトン

り立ち、問題を解決してゆく。私たちもその教訓となれるように、古来より伝わってきたバトンを改良して受け渡さねばならない。

何かを伝えるためには、聞き手に興味を持ってもらわねばならない。聞く気がなければいくら私たちが何かを伝えたところで何も残らない。そして時代を創っていくという責任感や臨場感も次世代に生まれにくい。現代の社会ではテレビや新聞、雑誌、インターネットと、様々な媒体から情報が伝えられている。そして子供たちも含めて、現代の人々はこのようなメディアからの情報に触れる機会が多い。しかし今の若い世代は果たしてメディアからの情報を受け、今の世の中に興味を持っているだろうか。今日よく報道される「選挙に行かない若者が増加している」という事実からも、若い世代が世の中にあまり興味がないことは明白だ。テレビやインターネットを見ている、政治の動きや社会問題、国際問題に興味があって見ているわけではなく、単に娯楽要素として利用していることが多いからである。私たちが次世代の子供たちに残すべきことは、まさに「世の中のことをもっと聞きたい、知りたいと思う気持ち」である。そのためには小学生や中学生などのまだ頭の柔らかい頃から世の中に興味を持つ傾向を作らねばならない。

小さな子がおままごとでお母さんの真似を

するように、子供は大人やお兄ちゃん、お姉ちゃんの真似をして自分も大人になったような気分を味わいたいものである。私も小さい時はよくぬいぐるみで幼稚園の先生ごっこをしたり、大人のようにハイヒールを履きたくて母のハイヒールを履かせてもらったりしていたことを覚えている。これは幼少期だけでなく、小学生や中学生の女の子が化粧をしたがるように比較的大きくなってからも続くものではないだろうか。そこで私は、この子供の大人への憧れを上手く利用できないかと考えた。

私はジャーナリストになり、小、中学生向けの週刊誌を作りたいと考えている。ただの芸能情報や偏った考え方しか載っていない週刊誌ではない。子供が政治や世の中の動きに興味をそそられるような、分かりやすく読みやすい、遊びながら読める教育雑誌である。よく書店で、お母さんは雑誌を読んでいるが子供だけ飽きてつまらなそうにしている光景を目にする。そこでお母さんは子供に読ませたい本を選んできて隣で読ませるが、そう簡単に興味のない本を大人しく読んでいる筈がない。自分もお母さんと同じように雑誌が読みたいのに、大人向けのファッション雑誌や難しい漢字で書かれた週刊誌がずらりと並ぶ書店では読むものがなく、結局、子供向けの娯楽雑誌や絵本を読まざるを得ない。中学生ならば好んで中学生向けファッション雑誌を読んでしまおう。

今どきの子供が未来を創る

——興味繋ぐバトン

これは実にもったいないことだ。こんな問題が「子供向け週刊誌」によって解決されるのだ。子供は、「面白そう」と思ったものには何でも飛びつく。カラフルな色合いや、挿絵のあるものには興味をそえられる。子供向けのピールという名目のジュースが売れるように「大人向けの商品」が「子供向け」に改良されているものにはことさらに興味を持つのだ。そしてそれがその人にとって意味のあるものであり「もっと」と思うことができたならば継続する。まずは週刊誌を読む憧れで、子供の心をつかむのだ。

みなさんも「飛び出す絵本」をご存じだろう。富山県射水市の大島絵本館で手作り絵本のコンクールが昨年行われた。カラフルな絵本や飛び出す絵本など作りは様々だ。参加者の中に、小学生の頃仕掛けた絵本を読んで感動したことがきっかけで応募した方がいた。また取材した方は、「話の面白さや趣向を凝らした装丁を楽しんでいるうち、ついつい絵本館で長居してしまったことがある」とコメントしていた。このように、娯楽要素をたっぷり含んだ絵本には、大人まで心が奪われて引き込まれてしまい、また子供の頃受けた印象や記憶はずっと残るのだ。

この絵本が与える感動を週刊誌に取り入れれば、いとも簡単に子供の心をつかめるはずだ。子供向け新聞が現在普及している。私も小学生の時に読んでいたが、子供向けと

はいえやはり長い文章がずらりと並び、逆に興味を削がれてしまったことがある。そして結局、漫画だけを読んでやめてしまうということが多々あった。同様の理由で読むことを止めてしまった友人もたくさんいた。

そこで長い文章だけを並べるのではなく、漫画も取り入れたレイアウトにすることが大切だ。もちろん政治的内容の漫画である。よく歴史を学ぶための漫画の本があるが、まだ歴史を習ったこともない私の弟が、小学校低学年の時に、とても面白い挿絵の多い漫画の歴史図鑑に熱中し、小学校高学年で歴史を勉強していた私と話がぴたりと合うことがあった。

漫画で勉強なんて、と思う方もいるであろう。確かにその分野の細部までをすべて学ぶ事は不可能に近い。しかし実際、記憶として残すにはとても適している。語呂合わせで「いい国つくろう鎌倉幕府」と覚えることと同様に絵と関連付けて記憶の中に定着させるのだ。つまりエピソード記憶のうちの映像記憶である。これを利用して、現代の政治の流れを知ってもらうために政治家を題材とした漫画で表現すれば、楽しみながら、そして記憶に定着する方法で政治を学ぶことができる。

「社会に興味を持ってもらう」ことを目的としているので、まずは知ることの楽しさを伝えたい。それさえ分かれば、詳しく学ぶ意欲も

今どきの子供が未来を創る

——興味繋ぐバトン

湧き、「これでは駄目じゃないか」と日本の将来に不安を持ったり、「こうすればよいのに」と意見を持ったりする子供も出てきてくれるに違いない。この気持ちこそが未来を動かし、変えてゆくには必要であるから、私たちがすべきことは子供たちに「世の中のこともっと聞きたい、知りたいと思う気持ち」を持たせることなのである。この「子供向け雑誌」という、いかにも「今どきの若い子たちは」と言われそうな手段にぜひ乗ってみようではないか。子供たちの未来を創る意欲を育てる、「興味」が世代を繋ぐバトンとなるのだ。

参考文献

- ・ 清少納言（松尾聰・永井和子一校注・訳）『枕草子』
新編日本古典文学全集 小学館
- ・ 「手作り“3D”絵本 飛び出す「三国志」 富山・射水」
『中日新聞』（中日新聞社、2011年3月11日付夕刊）
- ・ 前野隆司『記憶 脳は「忘れる」ほど幸福になれる!』
ビジネス社